

科目ナンバリング：ULT-3-201-08

**■授業の目的及び到達目標**

本授業は、中国語科教育の理論や実践を理解し、教育実習で活かせるように中国語科の教員としての必要な能力を身に付けることを目的としている。模擬授業での実践的な学びを通し、教えるという意識を高め、学習指導案の作成及びその遂行能力を獲得することを到達目標とする。

**■授業計画****〔前期〕**

- 1 高校の中国語教育の現状  
中国語教育の現状について紹介する。高校の取組み、ICTを用いた授業実践、アクティブラーニング等を、説明する。
- 2 学習指導要領と中国語教育の関連  
学習指導要領と中国語教育に関し、教授内容とその範囲を理解し、考察する。
- 3 発音指導（1）  
発音指導の方法、ピンインの問題について学習する。PCを用いた指導方法も紹介する。
- 4 発音指導（2）  
入門期の指導と発音問題について整理し、実際の授業デザインを考える。
- 5 テキスト分析（1）  
中国語の指導項目と学習項目について、指導内容とその範囲を学ぶ。
- 6 テキスト分析（2）  
教科書選択の基準。様々な教科書の特徴を把握し、市販のテキストを分析する。
- 7 指導法（1）  
言語活動を導く手段、練習の仕方を学ぶ。ICTを用いた指導法、アクティブラーニングについても紹介する。
- 8 指導法（2）  
教材の利用法について学ぶ。板書の仕方、PCの活用法等についても知る。
- 9 文法事項（1）  
初級段階で問題点となる文法事項について、整理して考察する。
- 10 文法事項（2）  
文法の基礎事項の整理をし、実際の授業デザインを考察する。
- 11 指導案作成（1）  
教材研究、指導案の内容、文法事項を整理しながら、授業展開を考察する。
- 12 指導案作成（2）  
指導案の例、指導案の書き方などを学ぶ。目標、学習段階など全体像を概観する。
- 13 模擬授業の演習  
指導案（1）、指導案（2）で作成した計画に基づき、実際に模擬授業を授業内で実施する。

**〔後期〕**

- 1 前期の振り返りと後期の内容紹介  
前期の学習内容の振り返りと後期授業概要の説明をする。模擬授業の割り当てを決める。
- 2 発音指導・模擬授業  
発音指導の模擬授業を実施する。練習方法についても、あらかじめ準備しておく。
- 3 中国語教授法・第二言語習得  
中国語教授法、第二言語習得に関し学習する。プレゼンにより、知識の定着を図る。
- 4 中国語教員の役割・学習者論  
中国語教員の役割、学習者論に関し、関連する文献を読み学ぶ。
- 5 教案作成（1）  
過去に教育実習をした学生の教案を参考に、作成の仕方を学ぶ。
- 6 教案作成（2）  
自分で教案を作成する。どのように展開し、どのように練習するか検討する。
- 7 模擬授業（1）  
各自の作成した指導案をもとに模擬授業を行う。終了後、自身の授業を振り返る。
- 8 模擬授業（2）  
各自の作成した指導案をもとに模擬授業を行う。終了後、自身の授業を振り返る。
- 9 導入と展開について（1）  
授業内での練習の仕方、さまざまな導入の仕方について学ぶ。
- 10 導入と展開について（2）  
授業内での練習の仕方、さまざまな導入の仕方について学ぶ。
- 11 中国語の辞書  
中国語学習辞典を比較し、辞書のあり方や、どのような学習辞典が好ましいか考える。
- 12 テスト  
テスト問題を作成し、評価について知る。中国語の各種検定テストについて理解する。
- 13 評価法  
テストとも関連する科目の評価法をめぐって考察する。評価とはなにかを理解する。

**■授業の方法**

プリント教材を使用し、授業計画に従って講義を行う。受講者の積極的な参加を求める。授業中の作業、課題などを多く課す。教育実習で中国語をしっかりと教授できるよう、実践的な訓練をする。

**■予習・復習**

予習：各授業項目について、教科書や指示した書籍を読んでから臨む  
模擬授業前は、教案のチェックを受けてから、授業実施  
復習：各項目で学んだ内容をまとめ理解  
模擬授業の指摘点は、必ず改善

**■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）**

発表の完成度や質疑応答への対応の仕方 20%  
各テーマに関わる議論への積極性 10%  
前後期末に課すレポートの完成度 50%  
模擬授業における完成度 20%  
フィードバックは講義中もしくはメールで行う。

**■教科書・参考書**

教科書：『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（文部科学省）  
『中国語の教え方・学び方—中国語科教育法概説』（興水優著）  
『why?にたえるはじめての中国語の文法書』（相原茂、石田知子、戸沼市子著 同学社）

**■関連する科目**

中国語に関する科目であるならば、すべて関連する。特に、1年生必修の総合中国語や資格中国語が関係する。